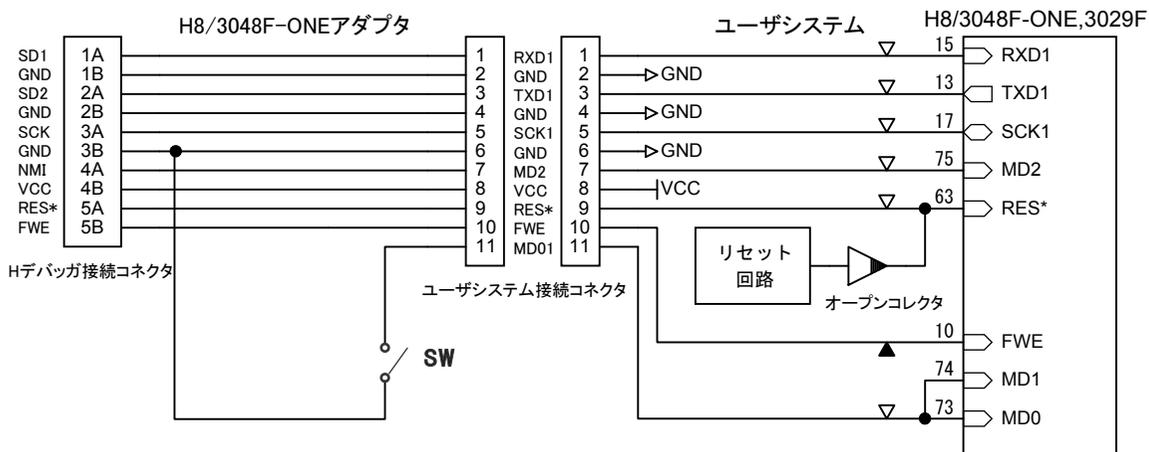


【 接続例4-2 】 H8/3048F-ONE,3029F(E10T仕様)手動の場合 (H8/300Hシリーズ)

Hデバッガを使用してE10T仕様のCPUをデバッグする場合、簡単なアダプタが必要になります。
 ユーザシステムと接続するコネクタは特に指定はありません。11ピン以上の適当なものを選定して下さい。



- 1) ▽印はプルアップ抵抗、▲印はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- 2) 本図はE10T仕様のCPUをモード7(シングルチップモード)で使用する場合の例です。
 モード5で使用する場合はMD1をGNDに接続して下さい。またモード6の場合はMD0をGNDに接続して下さい。
- 3) リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になる様ハード設計をして下さい。
- 4) エミュレーションモード動作指定時のモード動作は「手動」にして下さい。